

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告 (2018 年 6 月 29 日)〉

■ 審議事項

I 総会議事

II 各種委員会の 2017 年度活動報告および 2018 年度活動計画について

III 次期大会開催校 (京都大学) について

IV 非会員の交通費について

V 研究奨励賞の規程について

VI その他

■ 報告事項

VII 事務局報告

VIII その他

〈総会報告 (2018 年 7 月 1 日)〉

I 第 28 回大会年度 (2017 年度) 活動報告について

II 第 29 回大会年度 (2018 年度) 活動方針案について

III 学生会員の会費の値下げについて

IV 第 30 回大会 (2019 年度) 開催校について

〈第 29 回大会報告 (2018 年 6 月 30 日・7 月 1 日)〉

〈『カリキュラム研究』第 28 号・論文投稿先のご案内〉

〈第 9 回研究集会報告〉

〈日本カリキュラム学会主催 「秋のセミナー2018」のご案内〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告 (2018 年 6 月 29 日)

定例理事会が 6 月 29 日 (金) 16 時から 19 時まで、北海道教育大学旭川校 P 棟 307 第 1 会議室にて開催されました。事務局 3 名を含む 29 名 (うち理事 27 名) の参加がありました。

■ 審議事項

I 総会議事

二宮事務局長より、「第 29 回大会総会 議事次第 (案)」および「決算報告書 (詳細版)、会費納入推移、収支・繰越金推移」について、資料に基づき提案があった。2017 年度の決算報告書【総会資料 1】について審議した結果、資料の通りとすることが承認された。また、2018 年度予算案【総会資料 2】については、審議の結果、以下の点が修正されることとなった。

- 「収入の部」の項目「第 28 回大会収入 (除く補助費)」の表記を「第 29 回大会収入 (除く補助費)」に修正する。
- 「支出の部」の項目「30 周年記念事業費」の予算額については「300 万円」のままにするとともに、30 周年記念大会に関して経費が必要になった場合には予備費から充当することが確認された。
- 「支出の部」の項目「会合費 (含む交通費)」の表記を、会合費の大部分を交通費が占めている実情に鑑みて、「会合費 (交通費他)」に修正する。

30 周年記念事業の進捗状況について、長尾理事より口頭で報告があった。今年度中には出版できるよう、進められていることが報告された。また、執筆者校正について、当初は初校のみということで進められていたが、再校まで行うかたちになったこと、および、再校については初校で手を入れた箇所のみについて行うということが確認された。また、会員 (2018 年 7 月 1 日 (総会開催日) での会員名簿に基づく) には、一人一冊、30 周年の記念品として進呈 (無料配布) することと、会員一時資格停止者については進呈しないが、会員資格が復活した際にはその時点で進呈すること、郵送費については出版社に負担していただくことが確認された。さらに、買い増し希望があった場合には、購入時点で会員であれば定価の 8 割の値段で購入できるようにしていただくことと、販売・購入に関しては学会が関与するのではなく、出版社の判断と責任において行っていただくことも確認された。

秋のセミナーや研究集会について、何らかのかたちで記録として残せるようにできないかという提案があった。審議の結果、発表者の了解を得たうえで学会の会員限定ページに発表者の資料を掲載し、会員が自由に閲覧できるようなかたちにすることとなった。その際、発表者の了解については、コーディネーターがとることとなった。また、資料については、データを発表者から国際文献社に直接送っていただくこととなった。加えて、国際文献社に、専用のページの開設依頼を行うこととなった。

II 各種委員会の 2017 年度活動報告および 2018 年度活動計画について

1. 紀要編集委員会 (研究奨励賞審査委員会含む)

安藤委員長より、資料に基づき報告があった。

紀要第 27 号に掲載された論文のうちの 1 本において出典の記載不備 (注の 2 か所の著者名に誤字) があった件について、安藤委員長より、経緯の説明と今後の対応方針についての提案があった。審議の結果、提案の通りに進める (第 28 号で誤字の訂正を記載するとともに、保管分の第 27 号には、その旨の訂正文のプリントを挿入する) ことで了解された。なお、J-STAGE に掲

載する際には、誤字を修正したものを掲載することとなった。さらに、本決定については、被引用者ご本人ならびに誤字の指摘をしてくださった会員にも、安藤委員長より連絡することとなった。

紀要第 28 号の原稿の入稿締め切り（2018 年 12 月 31 日）を厳守いただきたい旨、安藤委員長ならびに山口副委員長から改めて依頼があった。特に、課題研究については複数名でコーディネーターを担当される場合が多いため、責任者を予め決定して作業を進めていただきたい点が強調された。

2. 国際交流委員会

近藤委員長より、資料に基づき報告があった。

「海外カリキュラム研究情報」を他国の執筆者に依頼する場合、紀要出版後に執筆者に紀要をお送りする必要があるが、現在、その手続きが明確になっていないため明確にしてほしいとの提案があった。審議の結果、執筆者にお送りする紀要 1 冊を国際文献社から国際交流委員会委員長にお送りいただき、委員長が紀要の送付ならびに謝金の支払いを行うこととなった。

3. 研究委員会

子安委員長より、資料に基づき報告があった。

「中間研究集会」の表記を「研究集会」に修正することが確認された。また、「課題研究 I」のタイトルについては、資料に記載されていた「カリキュラムの評価とマネジメントをめぐって(1)－「効果検証」を中心に－」を、「カリキュラムの評価とマネジメントをめぐって－「効果検証」を中心に－」に修正する（連番をつけないかたちにする）ことが確認された。

4. 広報・若手育成委員会

村川委員長より、資料に基づき報告があり、承認された。

III 次期大会開催校（京都大学）について

西岡大会実行委員長より、資料に基づき報告があった。

大会校のイベント開催スケジュールの都合により、大会日程を通常よりも 1 週間早い「2019 年 6 月 21 日（理事会）、6 月 22 日（大会第 1 日目）、6 月 23 日（大会第 2 日目）」で開催すること、および、会場についてはすでに予約済みであることが報告された。

加えて、会場費として約 50 万円が必要となることをふまえて、大会補助費の増額についての検討依頼がなされた。審議の結果、岡山大学大会時の会場費との差額をふまえて、従来の 65 万円から 100 万円に増額することとなった。また、ポスター作成、広告収入、協賛企業の依頼などについても、今後、方策を検討しながら進めることとなった。

IV 非会員の交通費について

二宮事務局長より、旅費申請に関して、自家用車を利用する場合の取り扱いについての原則を規程に加筆したい旨、資料に基づき提案があった。審議の結果、「交通事情等により、自家用車を利用する場合には、ガソリン代と高速代を支払います（ただし、公共交通機関を利用した場合の費用に換算してお支払いすることも可能です）」という一文を、現在の規程に加筆することとなった。具体的な支払金額については、大会校、あるいはコーディネーターが計算し、そのうえで支払うこととなった。

V 研究奨励賞の規程について

二宮事務局長より、規程の附則に「本規程の改正は、総会の決議による。」という一文を加えたい旨、資料に基づき提案があった。審議の結果、以下のかたちで附則を示すこととなった。

附則：本規程の改正は、総会の決議による。
実施にあたっての細則は理事会において補うものとする。

今回の決定をふまえて、学会ウェブサイトにも、「会則」に加えて「研究奨励賞規程」「役員選出規程」も掲載することとなった。また、現在、一部の表記が統一されていないことが指摘され、表記については「規程」「附則」に統一することが確認された。さらに、以上の変更については、二宮事務局長より国際文献社に依頼して対応していただくこととなった。

VI その他

澤田理事より、2018年11月15日から11月24日にかけて、Ayla Gavins氏が来日されて講演会等が開催されること、および、2018年11月23日に上智大学においてシンポジウムを開催することとなっていることが報告されるとともに、可能であれば上智大学でのシンポジウムをカリキュラム学会との共催にできないかという提案があった。審議の結果、「後援」というかたちで関与することとなった。本件については、11月の理事会において（可能であればそれよりも早く）、詳細が分かる資料を理事会で共有していただくこととなった。

前回理事会で継続審議事項となっていた WERA（世界教育学会）の大会（日本教育学会と同時に、東京大学および学習院大学にて開催）に関して、松下代表理事より経過報告があった。前回理事会では、日本教育方法学会と合同でセッションを持つかどうかを検討事項となっていたが、その後の審議の結果、合同セッションは持たないこととなったことが報告された。加えて、合同セッションは持たないものの、学会員に対しては同大会の開催に関する情報提供を行うことが確認された。

■報告事項

Ⅶ 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、「会員現況報告」「寄贈図書等一覧」「会計監査」について、資料に基づき報告があった。

Ⅷ その他

上記「Ⅳ 非会員の交通費について」の決定を受けて、坂井第 29 回大会実行委員会委員長より、今大会の公開シンポジウムのパネリストである小学校教員のお二人の交通費に関しては、自家用車を利用されるが、公共交通機関を利用した場合の費用に換算してお支払いするかたちになったことが報告された。加えて、大会時の懇親会や昼食、シンポジウムの進行等に関する報告ならびに依頼があった。

次回の理事会について、まず、「2018年11月18日（日）10:00～12:00」に開催されることが決定した。また、同日の午後に「秋のセミナー」を開催することも確認された。会場については筑波大学（茗荷谷）を予定するが、手続き時期の都合で現時点ではまだ予約ができないため、予約が可能になった時点で根津理事に予約をしていただき、予約ができた時点で確定することと、筑波大学（茗荷谷）での開催ができない場合には改めて会場を検討することが確認された。

（※ 会場については、その後、筑波大学〔茗荷谷〕に決定した。）

総会報告（2018年7月1日）

2018年7月1日（日）の12時30分から13時30分まで、北海道教育大学旭川校 P 棟 101 講義室において、坂井誠亮会員（北海道教育大学旭川校）と西岡加名恵会員（次期大会校／京都大学）を議長団として、総会が開催された。これにおいて、2018年6月29日（金）の理事会で承認された議案が、すべて承認された。

I 第28回大会年度（2017年度）活動報告について

（1）一般活動報告

①現況概要（2018年6月21日現在）

会員総数 710名（一般会員 626名、学生会員 76名、団体会員 8件）

※うち、連絡先不明者 8名、会員一時資格停止者 29名を含む。

会費納入状況 2017年度分の納入率 93.7%（昨年度 94.4%、一昨年度 92.8%）

②第28回大会報告

参加者 220名。会報第 76号にて既報。

③学会誌『カリキュラム研究』第27号発行

④会報第 74・75・76号発行

⑤学会研究奨励賞選考結果

該当者なし

⑥会員勧誘の結果（2017年度内）

新入会員 45名（参考：昨年度 41名、一昨年度 29名）

⑦秋のセミナー2017の開催

日時：2017年11月4日（土）

場所：お茶の水女子大学

テーマ：「学び続ける教員像 -教員養成・研修のカリキュラムをともに考える-」

発表者：倉本 哲男（愛知教育大学）

「教職大学院、及び教員研修プログラムにおける理論と実践の融合とは？

-カリキュラムマネジメント&アクションリサーチを中心に-

金馬 国晴(横浜国立大学)

「学部生が理想の授業・学級・学校を描く講義

-教職課程でできるカリキュラム・マネジメント-

遠藤 貴広(福井大学)

「地域・学校に根ざした長期実践研究をコアにした教師教育カリキュラム

-教師教育担当者的カリキュラム・マネジメント-

上田 綾子（石川県教員総合研修センター）

「教員に求めるカリキュラム・マネジメントに関する知識・意識とは？

-県センター研修の取り組みから-

⑧第9回研究集会の開催

日時：2018年3月18日（日）

場所：お茶の水女子大学

テーマ：高校における探究科目の導入と課題

発表者：石川 久美氏（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

「SSH 課題研究を通して他者と協同して探究し続ける生徒を育てる」

坂井 俊樹氏（開智国際大学教育学部）

『歴史総合』の検討を中心にして」

玉谷 直子氏（お茶の水女子大学附属高校）

「SGHにおける探究活動」

林 尚子氏（和光学園高校）

「選択科目『農と地域』における生徒の探究と体験」

⑨30周年記念事業の準備

⑩その他

(2) 2017年度決算報告・監査報告

日本カリキュラム学会
第28回大会年度(2017年度)決算報告書
(2017年4月1日～2018年3月31日)

収入の部


項目	予算額(円)	実績(円)
学会年会費	5,000,000	5,200,000
入会金	60,000	90,000
学会誌代・雑収入・利子等	40,000	81,034
第28回大会収入(除く補助費)	1,400,000	1,104,501
前年度繰越金	7,421,874	7,421,874
合計	13,921,874	13,897,409

支出の部

項目	予算額(円)	実績(円)
第28回大会補助費	650,000	650,000
第28回大会支出(除く補助費)	1,400,000	1,026,183
第27号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	831,358
会合費(含む交通費)	800,000	1,184,231
事務局経費	150,000	59,132
事務局外部委託費	1,600,000	1,604,927
ホームページ運用費	250,000	183,600
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	49,566
国際交流委員会	100,000	0
研究委員会	300,000	187,595
広報・若手委員会	300,000	257,440
(小計)	900,000	494,601
30周年記念事業準備費	400,000	39,635
理事・代表理事選挙経費	27,675	335,667
予備費	200,000	0
次年度繰越金	6,784,199	7,428,075
合計	13,921,874	13,897,409

本簿について監査しました。

2018年6月21日

関根明伸 

上野正道 

II 第29回大会年度(2018年度)活動方針案について

(1) 一般方針

- ①年次大会(第29回大会)の実施
- ②第30回大会の準備: 京都大学にて6/22(土)・23(日)に開催
- ③学会誌『カリキュラム研究』第28号発行
- ④学会研究奨励賞の選考
- ⑤秋のセミナー2018の開催

- ⑥第10回研究集会の開催
- ⑦会報、その他の広報活動
- ⑧会員勧誘
- ⑨30周年記念事業の準備
- ⑩その他

(2) 2018年度予算案

第29回大会年度(2018年度)予算案(2018年4月1日～2019年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	5,000,000	過去2年分の実績にもとづく
入会金	80,000	○40名見込み(過去2年の実績による)
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	
第29回大会収入(除く補助費)	1,100,000	○第27・28回大会実績にもとづく
寄付	0	
前年度繰越金	7,428,075	
合計	13,658,075	

支出の部

項目	予算額(円)	備考
第29回大会補助費	650,000	執行済
第29回大会支出(除く補助費)	1,100,000	第27・28回大会実績にもとづく
第28号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	J-STAGE掲載経費を含む
学会研究奨励賞費	0	該当者なし
会合費(交通費他)	1,200,000	○2017年度分の実績にもとづく
事務局経費	150,000	
事務局外部委託費	1,600,000	
ホームページ委託運用費	250,000	アーカイブ経費を含む
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	執行済
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	
国際交流委員会	100,000	
研究委員会	300,000	
広報・若手育成委員会	300,000	
(小計)	900,000	
30周年記念事業費	3,000,000	○記念本の買取額にもとづく
予備費	200,000	
次年度繰越金	3,848,075	
合計	13,658,075	

備考欄の○印は昨年度から変更がある項目

III 学生会員の会費の値下げについて

2017年11月4日に開催された日本カリキュラム学会理事会にて、代表理事の松下理事より以下のような提案が行われ、承認を得た。

■現状

・本学会の財政状況は、このところ、600～700万円近い繰越金があり、繰越金の額がやや多すぎる状況にある。

【参考】2017年度予算案

・一方、会員数は横ばい傾向にあり、特に学生会員にその傾向が見られる。

【参考】会員総数

・2017年総会時：会員総数 709名（一般会員 623名、学生会員 78名、団体会員 8件）

・2016年総会時：会員総数 700名（一般会員 613名、学生会員 80名、団体会員 7件）

・会費は現在、以下のようになっている。

入会金 2,000円

年会費（一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円）

【参考】会則第8条

本会の会員は次の会費を納入するものとする。

(1) 正会員 年額 8,000円

(2) 学生会員 年額 5,000円

■提案

・学生会員の年会費を 5,000円から 4,000円に値下げする。

*これによる収入の減少は 8万円弱であり、学会の財政状況に大きな影響はない。

現行の会則	改正案
第8条 本会の会員は次の会費を納入するものとする。 (1) 正会員 年額 8,000円 (2) 学生会員 年額 5,000円 (3) 団体会員 年額 10,000円 2 会費の納入を怠った場合は、会員としての資格を失うことがある。	第8条 本会の会員は次の会費を納入するものとする。 (1) 正会員 年額 8,000円 (2) 学生会員 年額 4,000円 (3) 団体会員 年額 10,000円 2 会費の納入を怠った場合は、会員としての資格を失うことがある。

IV 第30回大会（2019年度）開催校について

場所：京都大学

日時：2019年6月22日（土）・6月23日（日）

第29回大会報告（2018年6月30日・7月1日）

日本カリキュラム学会第29回大会は、2018年6月30日～7月1日に北海道教育大学旭川校を会場にして開催された。参加者は148名であった。

自由研究発表では、9分科会が設けられ、38件の発表があった。各分科会3～5件の発表となり、どの分科会も熱心な議論が展開された。

課題研究は4つのテーマが取り上げられた。課題研究Ⅰは、「カリキュラムの評価とマネジメントをめぐって—「効果検証」を中心に」（コーディネーター/司会：田中統治・澤田稔・吉富芳正）をテーマに、岡部善平、安田節之、安藤輝次から提案がなされた。ここでは、アメリカを中心に展開されてきた「プログラム評価」研究を交えて、日本でのカリキュラム研究の課題を検討し、カリキュラムの「効果検証」をめぐる理論と実践の論点について、提案者それぞれの立場から整理された。その後、フロアとの意見交換を通じて、今後の展望について議論が深められた。

課題研究Ⅱは「学校現場との協働に基づくカリキュラム研究をどう進めるか」（コーディネーター：村川雅弘・柴田好章、司会：村川雅弘・田村知子・柴田好章）をテーマに、天笠茂、木村裕、水野正朗から提案があった。ここでは、学校教育活動の充実と学術研究の進展の両立を目指して、学校現場との協働に基づくカリキュラム研究をどのように進めるかについて各提案者から示され、今後の研究推進の在り方について意見交換がなされた。

課題研究Ⅲでは、「「見方・考え方」をどう捉えるか—資質・能力の育成と教科の本質の追求とをつなぐ」（コーディネーター/司会：的場正美・石井英真）をテーマに、西岡加名恵、草原和博、阿部昇から提案があった。ここでは、「見方・考え方」という概念をどのように捉え、そこからどのような実践的示唆を導き出すのかについて各提案者それぞれの立場から示され、資質能力の育成と教科の本質とを架橋するものをどのように概念化するかについて検討がなされた。

課題研究Ⅳでは、「いま改めて多文化主義の教育を考える」（司会：近藤孝弘・中野和光、指定討論者：上地完治）をテーマに、本田優子、生澤繁樹から提案があった。ここでは、多文化教育の中でも特に先住民の教育に焦点を当て、ウレシパ・プロジェクトという実践例を手がかりに、アメリカにおける議論を一つの参照軸としつつ、これまでのカリキュラム研究が反省すべき点と今後の課題について各提案者から示された。その後、意見交換を通じて今後の在り方について議論が深められた。

また、公開シンポジウムでは「子どもの主体的な学びを支える学校づくり」（コーディネーター/司会：高橋亜希子・坂井誠亮、指定討論者：前田賢治）をテーマに、鹿毛雅治、豊田ひさき、村田敏彰、吉田尚規から提案がなされた。子どもの主体的な学びとはどのような学びであるのか、子どもの主体的な学びを支える教職員集団をどのように組織するのか、すなわちカリキュラムや校内研究体制をどのように組織するのかについて、動機づけに関する研究と授業研究の在り方に関する視点から、東井義雄の授業実践に関する歴史研究の視点から、学校現場における具体的な実践から話題提供していただき、フロアの参加者とともに熱い議論が展開された。

（北海道教育大学旭川校：坂井誠亮、藤川聡）

『カリキュラム研究』第28号・論文投稿先のご案内

『カリキュラム研究』第28号（2019年3月刊行予定）の論文投稿先は以下の通りです。

〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山 7-54
関西学院大学教育学部 佐藤真研究室
日本カリキュラム学会 紀要編集委員会事務局
sshin@kwansei.ac.jp

第27号記載の「投稿要領」、「投稿にあたっての注意」を熟読願います。
投稿原稿の締め切りは9月末日（当日消印有効）です。

会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

第9回研究集会報告

テーマ：高校における探究科目の導入と課題

日時：2018年3月18日（日）14時～17時

場所：お茶の水女子大学 共通講義棟1号館301室

報告者：

石川 久美氏（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

SSH 課題研究を通して他者と協同して探究し続ける生徒を育てる

坂井 俊樹氏（開智国際大学教育学部）

新設高校『歴史総合』と「日本史探究」「世界史探究」を中心に

玉谷 直子氏（お茶の水女子大学附属高校）

SGH における探究活動

林 尚子氏（和光学園高校）

選択科目「農と地域」における生徒の体験と学び

趣旨説明：高橋 亜希子（南山大学）

司会：子安 潤（中部大学）

第9回研究集会を上記のテーマの下に4名の方々に報告を依頼して開催した。

テーマを「高校における探究科目の導入と課題」としたのは、小中学校の学習指導要領においてもその傾向があるが、高等学校学習指導要領のキーワードとなっているのが「探究」であり、そのカリキュラム、探究科目の内容・指導方法等について検討することが焦眉の課題となってきた。

ているという認識からである。そこで、最初に高橋理事よりテーマ設定の趣旨説明の後、探求系科目の議論に関与されてきた坂井氏、すでに探究系科目を学校のカリキュラムに位置づけて実践されている三つの高校から石川氏、玉谷氏、林氏に報告していただいた。

坂井氏からは、大学の入試改革を含めて「探究」が重視される社会動向とその学習のポイントについて研究の経過を踏まえた報告がなされた。石川氏からは、SSHの指定を受け、理数科目の課題研究を中心に他者との協同を視点とした取り組みが報告された。玉谷氏からは、SGHにおける探究をフィールドワークを重視して展開している実情の報告を受けた。林氏は、「農と地域」にほとんど関心を持っていない生徒が探究と体験を通じて変容する実践を報告した。

三つの実践とも、テーマと取り組み条件が揃ったときには大変魅力的な学習となり、生徒の学習意欲を大きく引き出すことが示された。だが、他方で、生徒の設定する研究テーマに対応するために教師の負担が大きくなること、生徒はその魅力故に学習のバランスが欠けたり負担が大きくなることもあることも指摘された。こうした点で実施には人的・物的な条件が不可欠であることも示された。

研究会は、全国から昨年を大きく上回る50名の参加を得て貴重な意見交換の場となった。

(文責 子安 潤)

日本カリキュラム学会主催 「秋のセミナー2018」のご案内

平成30年9月

カリキュラム・マネジメントの研修をどう設計・実施・評価・改善するか

～カリマネ研修のカリマネを考える～

日本カリキュラム学会代表理事：松下佳代

広報・若手育成委員会委員長：村川雅弘

新学習指導要領にかかわる様々な改訂のポイントの中でも、学校現場や教育委員会、教員研修センターのカリキュラム・マネジメントに関する研修のニーズは高い。これまで教育課程に関する研修は教育センター主催等の教務主任研修や教育委員会の教育課程説明会に留まっていた。また、学校現場はカリキュラムに対する意識や興味・関心が低かったが、カリキュラム・マネジメントをきっかけに、カリキュラムに対する理解や関心を高めていただきたいと考える。

今秋は以下の日程で開催する。詳細は学会HPをご確認下さい。

日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、学会員にかかわらず、全ての学校関係者及び教職を目指す学生・院生、報道機関関係者、研究者に公開しています。お誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

なお、参加者は可能な限り、教育センターや校内等のカリキュラム・マネジメントにかかわる研修のプランや報告書をご持参ください。協議の時間を設けたいと思います。

1. 開催日時：平成 30 年 11 月 18 日（日） 14 時～17 時（受付 13 時 30 分～）
2. 開催場所：筑波大学・東京キャンパス文京校舎（茗荷谷）・講義室 120
【最寄り駅は東京メトロ丸の内線の茗荷谷駅です。正門からお入り下さい。】
3. 参加費：無料（事前申込みの必要はありません）

4. 内容

- (1) [課題提示] 村川雅弘：甲南女子大学（カリキュラム・マネジメントに関する各種研修の実態や課題について提示する）
 - (2) [事例発表] 吉田尚史：(独) 教職員支援機構（同機構の「カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」の研修担当者、同研修の趣旨、内容の変遷や効果、課題などを語る）
 - (3) [事例発表] 畑中一良：京都市教育委員会（地域行政としての学校のカリキュラム・マネジメント充実のための施策や課題などを語る）
 - (4) [コメンテーター] 根津朋実：筑波大学（カリキュラム研究の立場からコメントを行う）
 - (5) [質疑・協議]（参加者から広く課題や事例等を出していただき、全体協議を行う）
- 司会者：村川雅弘（甲南女子大学）・倉本哲男（愛知教育大学）

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告（2018 年 6 月 21 日時点）

■会員総数 710 名（一般会員 626 名、学生会員 76 名、団体会員 8 件）

※連絡先不明者 8 名、会員一時資格停止者 29 名を含む。

【内訳】

- ・新規入会者：21 名
- ・退会者：22 名
- ・一時停止資格者：29 名
- ・強制退会者：15 名
- ・連絡先不明者：8 名

■会費納入率（2018 年 6 月 21 日時点）

2017 年度：完納 619 名 未納 40 名 計 659 名 93.9%

※連絡先不明者 12 名含む、会員一時資格停止者 29 名除く。

2018 年度からの新入会者：22 名（一般：15 名、学生：7 名）

2018 年 4 月 1 日からの新入会者：21 名（一般：14 名、学生：7 名）

※1 名、2017 年度中に 2018 年度会員として入会のため

お詫び：

Newsletter 第 76 号にてお知らせをしました 2018 年 3 月 25 日時点での会費納入者数に誤りがありました。お詫びを申し上げますとともに、訂正をさせていただきます。

「2017 年度：完納 620 名 未納 71 名 計 681 名 91.0%」→「2017 年度：完納 608 名 未納 51 名 計 659 名 92.2%」

■新規入会者（2018 年 3 月 6 日～2018 年 6 月 21 日）21 名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2018/4/10	佐野 茂	所属非公開希望	一般会員	事務局
2	2018/4/11	佐藤 洋一	名古屋学芸大学	一般会員	事務局
3	2018/4/14	山崎 辰也	北海道北見北斗高等学校	一般会員	事務局
4	2018/4/17	池田 考司	北海道教育大学札幌校	一般会員	事務局
5	2018/4/18	市川 和也	所属非公開希望	学生会員	事務局
6	2018/4/19	田中 怜		学生会員	樋口直宏
7	2018/4/21	中村 洋樹	四天王寺大学	一般会員	事務局
8	2018/4/23	内田 靖	所属非公開希望	一般会員	事務局
9	2018/4/24	宮本 勇一	広島大学大学院	学生会員	吉田成章
10	2018/4/26	小杉 聡	所属非公開希望	一般会員	事務局
11	2018/5/1	奥村 利香	所属非公開希望	学生会員	事務局
12	2018/5/7	佐藤 雄一郎	広島大学	学生会員	吉田成章
13	2018/5/8	高田 尚美	名古屋学芸大学	一般会員	事務局
14	2018/5/10	芥川 元喜	金沢星稜大学	一般会員	事務局
15	2018/5/11	志村 喬	上越教育大学	一般会員	中野和光 柳田雅明
16	2018/5/15	本田 伊克	所属非公開希望	一般会員	中野和光 柳田雅明
17	2018/5/18	副島 孝	愛知文教大学	一般会員	水野正朗
18	2018/6/1	鈴木 伸尚	所属非公開希望	学生会員	事務局
19	2018/6/4	牧野 隼弥	所属非公開希望	一般会員	事務局
20	2018/6/5	高橋 純一	所属非公開希望	一般会員	坂井誠亮
21	2018/6/7	松本 たか子	所属非公開希望	学生会員	事務局

■退会者（2018年3月5日～2018年6月21日）22名

	退会日	氏名	所属	区分
1	2018/3/31	菅岡 強司	熊本大学大学教育機能開発総合研究センター	一般会員
2	2018/3/31	芦田 宏	兵庫県立大学 環境人間学部	一般会員
3	2018/3/31	斎木 道雄	湯之谷村立東湯之谷小学校	一般会員
4	2018/3/31	藤原 幸男	琉球大学	一般会員
5	2018/3/31	町田 健一	北陸学院大学	一般会員
6	2018/3/31	佐野 亮子	東京学芸大学（非常勤）	一般会員
7	2018/3/31	服部 美奈	名古屋大学大学院教育発達科学研究科	一般会員
8	2018/3/31	後藤 颯一	東洋大学	一般会員
9	2018/3/31	佐藤 有	北海道教育大学岩見沢校	一般会員
10	2018/3/31	斉藤 和彦	大和大学	一般会員
11	2018/3/31	于 凱麗	上越教育大学	学生会員
12	2018/3/31	三品 陽平	所属非公開希望	一般会員
13	2018/4/6	木内 秀夫	株) 木内書店	一般会員
14	2018/4/23	坪能 由紀子	日本女子大学児童学科研究室	一般会員
15	2018/5/7	大杉 昭英	岐阜大学教育学部	一般会員
16	2018/5/7	渋谷 昌雄	所属非公開希望	一般会員
17	2018/5/10	鈴山 雅子	三重県男女協同参画センター	一般会員
18	2018/5/14	佃 繁	寝屋川市立第三中学校	一般会員
19	2018/5/14	島田 和幸	純真短期大学	一般会員
20	2018/5/16	大田 邦郎	千葉大学教育学部	一般会員
21	2018/5/16	木村 松子		一般会員
22	2018/5/18	恩知 忠司	大阪教育大学	一般会員

2. 寄贈図書一覧（2018年3月12日～2018年6月22日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
関根明伸(著)	韓国道徳科教育の研究：教科原理とカリキュラム	東北大学出版会	2018/2/28	2018/3/13
鈴木悠太(著)	教師の「専門家共同体」の形成と展開：アメリカ学校改革研究の系譜	勁草書房	2018/2/10	2018/3/19
香川知晶、斎藤光、小松美彦、島蘭進、安藤泰至、	〈いのち〉はいかに語りうるか？：生命科学・生命倫理における人文知の意義(学術会議叢書24)	公益財団法人 日本学術協力財団	2018/3/12	2018/3/20

轟孝夫、大庭健、 山極壽一(著)				
細尾萌子・田中耕 治(編著)	新しい教職教育講座 教職教育編 ⑥ 教育課程・教育評価	ミネルヴァ書房	2018/3/10	2018/4/5
濱口佳和(編著)	教育心理学	ミネルヴァ書房	2018/3/30	2018/4/5
安藤輝次(著)	みんなで「深い学び」を達成する授 業: 形成的アセスメントで子どもが 自らの学びを把握し改善する	図書文化	2018/3/31	2018/4/10
安藤輝次(著)	持続的な学びのための大学授業の 理論と実践	関西大学出版部	2018/2/28	2018/4/10
ユーリア・エンゲスト ローム(著)、山住 勝広(監訳)	拡張的学習の挑戦と可能性:いまだ ここにはないものを学ぶ	新曜社	2018/4/2	2018/4/20
松田慎也(監修)、 畔上直樹、小島伸 之、中平一義、橋 本暁子、吉田昌幸 (編著)	社会科教科内容構成学の探求: 教 科専門からの発信	風間書房	2018/3/31	2018/6/5
原田信之(編著)	カリキュラム・マネジメントと授業の質 保証: 各国の事例の比較から	北大路書房	2018/6/20	2018/6/10

3. 会計監査について

■理事・代表理事選挙経費について

■第 27 回岡山大学大会の収支報告書について

会計監査にて、これまでの大会収支報告書と同様に、第 27 回岡山大学大会の収支報告書の中にも「研究交流会参加費」の項目が含まれてはどうかという指摘があったため、修正を行った。

日本カリキュラム学会第 28 回(岡山大学)大会収支決算書

(1) 収 入

(単位:円)

科 目	精 算 額	内 訳	備 考
学会より大会補助	650,000		日本カリキュラム学会
参加費	624,000	220 名	
広告料	120,000	20,000 × 2 社 + 10,000 × 8 社	
公益社団法人おかやま観 光コンベンション協会か らの補助金	75,000		

研究交流会参加費	284,000	71名	
雑収入	1,500	1,500×1冊	発表要旨集録売り上げ
	1		利子
計	1,754,501		

(2) 支 出 (単位:円)

科 目	精 算 額	内 訳	備 考
会場借上料	110,000		岡山大学施設使用料
印刷製本費	532,800	大会プログラム : 172,800 発表要旨集録: 360,000	大会プログラム・発表要 旨集録印刷
通信費	31,616	郵送料: 6,616 封筒: 25,000	郵送料・封筒
菓子・飲み物	19,952		会員及び理事控室用
弁当	74,600	茶: 4,600 弁当: 70,000	
運営諸費	116,126		看板、文具、会議費その他
アルバイト費	427,000		事務局アルバイト賃金
研究交流会	283,749		
配送等(学会事務局へ振込)	80,340		
学会事務局へ返納	78,318		
計	1,754,501		

(3) 収 支 (単位:円)

総収入金額	1,754,501
総支出金額	1,754,501
差し引き残額	0

上記のとおり、収支決算をご報告いたします。

平成 30 年 3 月 18 日 日本カリキュラム学会第 28 回(岡山大学)大会
事務局長 桑原敏典

4. 平成 29 年度(2017 年度)分会費納入のお願い

前年度分までの年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。2018 年 6 月 21 日時点での 2017 年度会費の納入率は 93.7%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、新しい会計年度（平成 30 年度）が始まっております。こちらにつきましても、会費の納入につきましても、ご協力をお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000 円、学生 5,000 円、団体 10,000 円）

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>